

---

calling now

乙未七菜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

calling now

### 【ノード】

N5353A

### 【作者名】

乙未七菜

### 【あらすじ】

酔っ払った彼女を川に落とさないよう奮闘するはなし

「如月、そつちに行くとほぼ確実に川に落下する。」

「五月水泳得意だから大丈夫でしょ」

「いや、最初から落ちるつもりで歩かないでください。」

真夜中、僕と如月は何故か国道沿いをふらふらと歩いていた。もう電車もなくなり、さつきまでバーで呑んでいた如月の足元はおぼつかない。僕の手に握られた傘の外では雨が降つており、もう片方の手でしっかりと如月を支えておかなければ大粒の雨の下へ歩き出してしまう。如月はだいぶ酔つており、時折意味のわからない言葉を口にするが、気にしてない。なにを言つても意味のわからない返答をするから僕が呼ばれて連れて帰らなくてはいけない訳で、如月もそれがわかつて呑めない酒を呑む。全くもつて何がしたいのかわからないが、どうやら如月はこうしてふらふらと千鳥足で、僕の手にひかれて帰るのが好きらしい。しかし、毎回となると非常にやっかいだ。僕には僕の予定と言つやつがあるところに如月は全くもつて気にならない。まあ、それが如月なのだからしょうがないのだけれど。「さつき、さつき、タクシーに乗ろうよ。あの白と黒のやつ。頭のとっぺんに赤いのが乗つたやつ

「…それ、パートカーだよ、如月。如月が乗つたら即捕まるよ。まだ未成年なんだから。」

「なによそれ、五月だって大して変わらないくせにー。いいよいよーわたしは泳いで帰りますー」

「如月、泳げないでしょ。海水浴でいつも溺れた如月を助けてたのは誰ー！」

「さつさ。」

「もう、マジメに歩いてくれ…。」

家まではまだだいぶある。このままふらふらと歩いて帰るよりもタクシーに乗つたほうが断然早いだろ？。さつきから何台か通つてい

くが、どれもお客様を乗せているので意味がない。

と、その時、一台のタクシーが前方からやつてきた。どうやらお客様を乗せていないようだ。自動販売機のおつりのところに手をつっこもうとしている如月をひっぱって車道まで出、手を挙げるもタクシーは止まらず行ってしまった。そして何故か僕ではなく如月が舌打ちをする。

「駄目でしょ五月！ もっとマジメに手を挙げないと一本氣出さないとやつらは止まってくれないのよ！ なんてつたつて今はサタデーナイトファイバーなのよ！ わたしたち以外にも沢山あのタクシーを狙つてるの！ ちょっと！ 聞いてるの！」

「聞いてるよ。強いて言えば今日はフライデーだよ。」

「どうでもいいわそんなこと！ ちょっと見てなさい！」

そういうと、僕の傘をむんずと掴んで車道に出て行つた。そしてタクシーを見つけると、いきなり傘をタクシーに向けたまま道のど真ん中へと出てぴょんぴょんと飛び跳ねたのだ。

「如月！ 危ない！」

急ブレーキの音がしてタクシーが如月のびしょびしょのスカートの手前5cmで停車すると、如月はVサインをしてみせた。それからタクシーの窓をこつこつして、乗せて！ と言つた。

運転手、困惑。僕、動搖。そして如月は、颯爽とタクシーに乗り込んだ。

行き先を告げ、タクシーが走り出すとすぐに如月の寝息が聞こえてきた。運転手さんに何度もすいませんと謝つてタクシーを降りると、如月を抱えてエレベーターで上がつた。部屋へ辿り着くと、お風呂に入りなさい！ と半分寝たままの如月を叱り付け、お風呂に入れた。その間にパジャマやらを準備して風呂場の前に置いておくと、しばらくしてぶくぶくばしゃばしゃばしゃと得体のしれない音があるので風呂場を覗き込む。案の定寝ていた。顔が水没していく、溺れかけていた。救出すると、そのまま風呂場の外まで連れて行き、溺服を着せた。全て半分寝ていた。大丈夫なのだろうか、この人は。

結局ベッドまで抱えていき、布団をかけてやつた。扉を閉める直前、ありがとうと聞こえたけれど、もしかしたら寝言だったのかもしれない。少しだけ嬉しくなつたが、温泉まんじゅうおこしかつたというのが聞こえてきて少しだけ落胆した。

愛しているのだ如月を。誰よりもきっと。

例えばあの雨の様に激しく、時にある川の様に静かに。そしてお風呂のお湯の様にいつも近くで。

水の様な愛だと言つたら笑われるだろつか。

それでも僕が如月を、如月が僕を求める「こと」になんの変わりはないのかもしれない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5353a/>

---

calling now

2010年10月19日09時45分発行